



地域の大学と連携した、校内で取り組む自然体験活動

～大学生との交流及び共同学習と合わせた取組み～



中学部の生活単元学習「めざせ！アウトドアの達人！！」で、火、木、草などの自然物を直接体験する自然体験活動を毎年実施しています。近隣の大学と連携して授業を計画したり、大学生と交流及び共同学習をしたりし、生徒自身が実感を伴った理解を育める実地的、総合的な授業を実践しています。本校はユネスコスクールとしてESDの活動を「地域との交流」と捉え、SDGsの掲げる質の高い教育の実現に向けて取り組んでいます。



本格的な自然体験活動

・単元期間はシェードやテント等を学校敷地内に常設。



・メインはダッチオープンで鶏の丸焼きづくり。



・火起こし、落ち葉アート、フィールドビンゴなどの活動。



大学生との交流及び共同学習

・毎日、野外教育ゼミナールの大学生が3～7名来校。



・大学生による活動のレクチャーやプログラム進行。



・一緒に制作物づくりや調理活動。



大学との連携

・順天堂大学の野外教育の専門家と連携し、授業を協働計画。道具はすべて本物を使用。



・約 1.5Km 先にある大学に訪問し、体育館でレクリエーションや学食と一緒に昼食。



・大学の講義で自分たちで活動を紹介。



5年間の持続した取組

- ・平成28年度からスタートし、評価と改善を繰り返す、生徒にわかりやすいプログラムの開発検討。
- ・平成30年度からは「選択プログラム」として、前年度までの全員で同じ活動に取り組む方法から、火起こしや薪割り、スラックライン等の複数の活動から生徒自身が選べるように展開。



みんなの声

- 生徒
「今日はとりちゃん（鶏の丸焼き）だね！」
「火起こしやるぞー！」
「〇〇さん（学生）が来るの楽しみ！」



- 保護者
「テントを張るときにトンカチを使ったのが「トントンした」などアウトドアを楽しんでいるようです」
「帰ってくるなり「おっかいチキン食べたよ」と報告してくれました。丸焼きは家ではできないので本人には衝撃だったでしょうね」
- 大学生
・「午後から授業ですが、ギリギリまで一緒に活動します」
・「現場での経験は貴重です」
・「今日で終わるのがさみしいです」



制作・調理活動

・枝や実を使った名札、写真立て。



・竹筒ごはん、ポトフ、焼きリンゴ、鶏の丸鶏（ローストチキン）。



